

糖尿病・内分泌・代謝内科 後期研修カリキュラム【2018年度版】

	糖尿病・内分泌・代謝内科	文責者	松下 隆哉
科長名	松下 隆哉		
診療科概要	糖尿病を中心とし、肥満、脂質異常症などの代謝疾患と甲状腺疾患、副腎疾患などの内分泌疾患を専門とし、午前・午後各2診体制で外来診療を行っており、2017年3月末の次回外来予約ベースの定期受診患者数は2,803名である。2016年4月～2017年3月の糖尿病入院患者数は302名、学会発表39件、研究論文5件である。当科では、多摩地域の基幹病院と数多くの研究会・セミナー等を開催すると共に、コメディカルスタッフの育成にも力を入れている。		
取得可能認定医 専門医	日本内科学会 新内科専門医 日本糖尿病学会 専門医 日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医		
指定研修施設の名称	日本糖尿病学会認定教育施設（認定番号332号） 日本内分泌学会認定教育施設（認定番号714113002号）		
修養年限	原則として6年（サブスペシャリティ研修の早期開始で短縮も可）		
新しい内科専門医研修プログラム：3年間	新しい内科専門医の研修プログラムに基づき、各内科合計200症例を経験するために、各内科を原則3年間ローテーションする。ただし希望により下記のサブスペシャリティ研修の早期開始も可とするが、その場合には経験できる分野が偏るため注意が必要である。		
日本糖尿病学会 専門医取得の場合 1年次	一般的な糖尿病の診断、治療ができるようにする。個々の患者の病態を理解し治療目標を決定し、治療目標の達成に向けた治療法の選択ができるようになる。		
日本糖尿病学会 専門医取得の場合 2年次	糖尿病の診断、治療に関する最低限の知識があるという前提に立ち、より詳細な指導のできる能力を養う。合併症について自ら検査を行い判断する能力を求める。合併症のある症例について個別に治療内容の変更（食事療法、運動療法、薬剤選択の考え方）が理解されていることを求める。		
日本糖尿病学会 専門医取得の場合 3年次	研修の仕上げとして、個々の症例についての十分な指導ができるようになると同時に、糖尿病患者の集団教育指導ができ、糖尿病療養指導士や研修指導医との討論を通して、総合的に糖尿病教育ができるようになる。		
スタッフ紹介	科長 松下 隆哉 講師 （日本内科学会 総合内科専門医、日本糖尿病学会 専門医・研修指導医、日本内分泌学会 内分泌代謝科 専門医・指導医、日本甲状腺学会 認定専門医） 小林 高明 臨床講師（日本内科学会 総合内科専門医、日本糖尿病学会 専門医・研修指導医、日本内分泌学会 内分泌代謝科 専門医・指導医） 梶 邦成 助教（日本内科学会 認定内科医、日本糖尿病学会 専門医） 廣田 悠祐 助教 赤岡 寛晃 助教 桑田 航士 助教		

週間スケジュール	病棟業務としては、当科(D4)病棟以外にも、各病棟に糖尿病のミット患者が入院しており、それらの患者の診療も担当する。
月曜日	午前一病棟業務、チームリーダ回診 午後一病棟業務 15:00~16:00 糖尿病教室（医師・看護師）
火曜日	午前一病棟業務、チームリーダ回診 午後一病棟業務、15:00~16:00 糖尿病教室（薬剤師・検査技師）
水曜日	午前一病棟業務、10:30~11:30 糖尿病教室：運動療法講義 午後一病棟業務、13:00~14:00 運動療法実技（天川理学療法士）
木曜日	午前一病棟業務、チームリーダ回診 午後一病棟業務、15:00~16:00 糖尿病教室（管理栄養士）
金曜日	午前一病棟業務、チームリーダ回診 午後一病棟業務、15:00~16:00 糖尿病教室（医師） 16:30~18:00 入院患者カンファレンス後に科長回診 18:00~19:30 科内カンファレンス 月1回：18:15~18:45 DMコミッティー (医師とメディカルの合同カンファレンス)
土曜日	午前一病棟業務、チームリーダ回診

《具体的なカリキュラム》

常勤の指導医の下に直接ついて、糖尿病の診断・治療を主に入院患者を通じて学ぶ。特に毎週金曜日の科長回診は、入院患者担当の管理栄養士・理学療法士と共に、個々の患者の治療方針をカンファレンスルームで検討後に行う。これにより食事・運動・薬物療法の理論・知識の習得とその実施およびその効果の評価を極めて実践的に行える。また腎臓内科が同じ病棟、眼科が階下の病棟であるため、様々なレベルの腎症・網膜症をもつ糖尿病患者の管理を数多く経験できる。低血糖の対応は救急外来で行うことが多いので、当科かかりつけの患者が意識障害で来院される場合の first call をなるべく後期研修医として、脳血管障害も含めて種々の原因による昏睡の鑑別診断を行う。患者指導・教育については、個人指導に主に関わり、2週間の教育カリキュラムの中で食事・運動療法・インスリン注射・血糖自己測定(SMBG)の指導が自らできるようにする。また日本糖尿病協会の多摩ブロック糖尿病教室や当科の患者会であるぎんなんの会に参加し、患者様とのコミュニケーションを通じてその意義を理解する。

個々の症例の理解を深めるため、積極的に症例報告・臨床研究を行う。具体的には研修期間中に、多摩内分泌代謝研究会、日本糖尿病学会関東甲信越地方会、日本糖尿病学会年次学術集会、西東京内分泌代謝研究会、東京医科大学医学会総会等に出席し、年に複数回研究発表の機会を設け、他施設の専門医から評価を受ける。

当センターの研修では病診連携も重視しており、年3回(2・6・10月の原則として第3金曜日-19:30~21:00)開催している八王子糖尿病ネットワークにおける地域開業医との症例検討会に出席し、そこで自分の担当した紹介患者の入院中の経過と治療法選択の根拠をプレゼンテーションすると共に、退院後の経過をかかりつけ医から聞くことで、自ら行った入院中の患者教育や治療法の選択が適切であったかどうかの評価を受ける。さらに西東京地域における糖尿病療養指導士の講習会やセミナーでの講演等を通して、センター内で研修した糖尿病の診断、治療、患者指導・教育の実践・評価方法を、多数のメディカルにフィードバックすることで、自らの知識もより確実にする。

以上当センターでは、西東京地域の日本糖尿病学会認定教育施設とも連携し、地域での様々な活動を通して研修内容の充実に努めている。